

一般社団法人 組込みシステム技術協会 御中



リフレクティブ・プロジェクトマネジメント研修 報告書

平成 30 年 4 月 18 日

メンター：中村 文彦



株式会社オイコス

記

1. 全体的受講態度など

受講生全員が、真剣かつ意欲的に研修に参加されていました。受講態度は極めて良好で熱心に講師の話に耳を傾けていました。グループでの話し合いやグループワークでも積極的に発言や作業に取り組んでいました。

午後は事例研究を中心としたグループワークや話し合いに多くの時間を使いました。ケーススタディの内容に興味を持って積極的に参加していただき、グループ内において活発な意見交換や話し合いがなされていました。

2. 良い点・改善の必要がある点など

事例研究を材料にした積極的な話し合いによって内容理解を深めることができ、研修の目的は達成できたと思います。解説やフィードバックによって「普段の仕事の中での思い込みに気がついた」などのコメントをいただきました。今回の受講者は経験豊かな方が多く、また役割や立場も異なったため、受講生同士の話し合いの中に多くの気づきが生まれたと思います。

事例研究におけるグループ内の話し合いで、問題の核心をつくような意見や有効な解決策などが出されていました。問題事象を多角的に捉える良い練習になったと思います。一方で、まだまだベンダー側の視点から脱却できない点がありました。他者の視点に立ったり、物事を俯瞰的に眺めたりするためには、もう少し練習が必要です。

3. 今後の進め方など

今回の研修では、一般的なプロジェクトマネジメント研修とは違った観点によるマネジメントの方法を「対話をする」、「問いを立てる」という点でお伝えしました。従来にはない観点でプロジェクトマネジメントをとらえることで、受講者は新たな気づきを得ることができたと思います。特に「メンタルモデル（考え方の癖、思い込み、間違った前提条件、過去の成功体験、既に有用性が失われている古いノウハウや持論など）」がプロジェクトの成功を阻害しているという考えは新鮮であったと思います。普段の仕事の中でも「問いを立てること」、「正しく疑うこと」や「内省すること」を心掛け、自分自身やステークホルダーのメンタルモデルを洞察することを習慣化していただければ幸いです。本日お伝えしたことは、工夫すれば普段の仕事で活用できます。ぜひ実務に取り入れてください。

以上